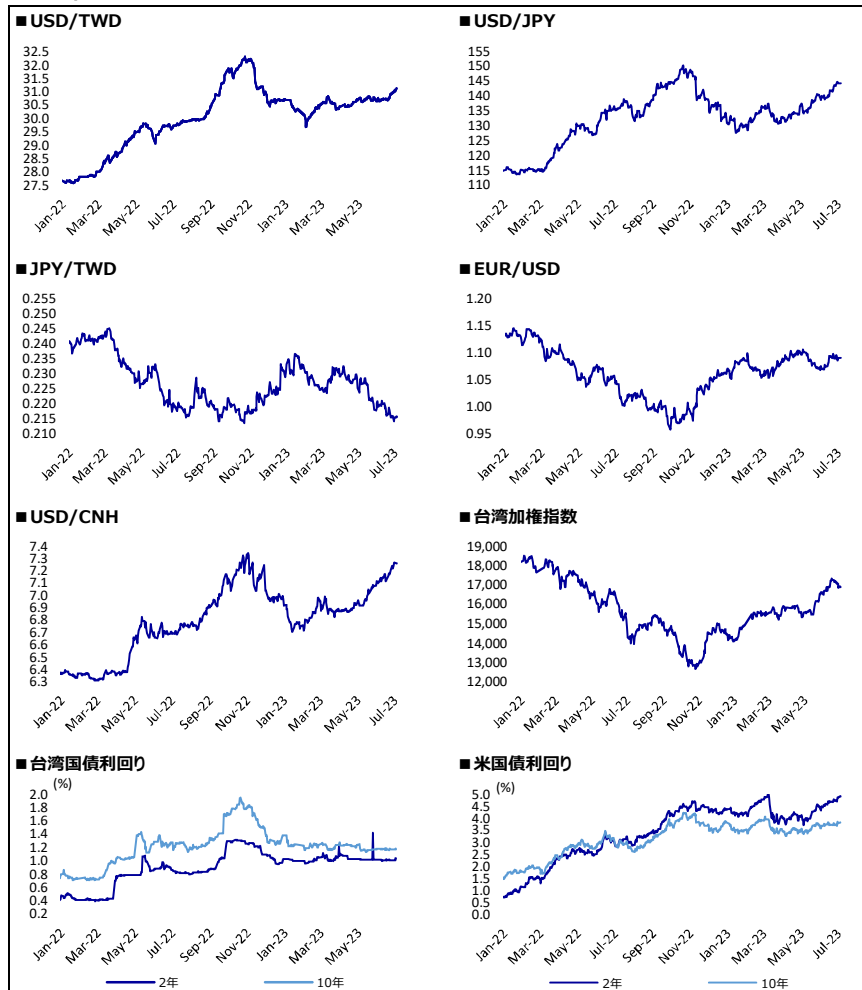


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇が続き、約7か月ぶりに31台に。端午節の連休明けの週初6/26は30.960でオープン後、連休中にドルが強含んだことから、31台に乗せた。しかし、その後は売り買いが交錯し、31ちょうどを挟んだレンジでの推移が続いた。6/27も台湾ドル売り圧力は強かったものの、四半期末の輸出企業のドル売りも少なくなく、上値が押さえられた。一方、外国人投資家のドル買いもあり、底値も堅く、31.0台前半のレンジでの推移が続いた。6/28もレンジでの推移が続いたが、外国人投資家の台湾ドル売り圧力が強まると31.08付近まで上昇。6/29は外国人投資家のドル買いと四半期末の輸出企業のドル売りが交錯し、再びレンジでの推移となった。6/30は米国の利上げ期待の高まりからドル買い圧力が強まったことや海外投資家の台湾ドル売りにより一時31.151まで上昇。最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の31.135で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は603.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は年初来高値を更新し、一時145円台まで上昇。週初6/26は143.46でオープン後、神田財務官からの円安へのけん制発言から上値が重く、また、日銀6月金融政策決定会合の「主な意見」が発表され、YCCについて早い段階での見直しを検討すべきとの内容が示されたこともあり、142.94まで下落するも米金利の上昇を背景に143円台半ばまで戻した。6/27は特段材料のない中、143円台で推移していたが、米6月消費者信頼感指数、米5月新築住宅販売件数が予想を上回ったことからドル買いで反応し、144円台前半で推移。6/28は本邦当局者から口先介入が入る中、143円台後半まで反落するもECBフォーラムでパウエルFRB議長が連続利上げの可能性を示唆したことから、ドルが買われ、144円台半ばまで上昇。6/29は昨年の介入した水準の145円台に近づく中、利益確定の売りや介入への警戒感から144円台前半で推移。しかし、米雇用関連指標が好調であったことから利上げ期待が高まり、144円台後半まで上昇。6/30は月末の実需のフローも入り、節目の145円台を突破し、145.07をつけた。しかし、介入への警戒感は強く、144円台後半で推移。その後発表された米経済指標から利上げ期待が後退すると144円台前半で推移。最終的に先週比0.4%ドル高円安の144.32で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.950-31.300
今週は底堅く推移すると見込む。米国の利上げ期待を背景にドルが買われやすく、底堅く推移するであろう。ただし、米国の重要経済指標の発表が予定されており、市場予想より悪化した場合は利上げ期待が後退し、台湾株台湾ドルが買い戻される可能性もあり、注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：143.50-146.00
今週は為替介入への警戒感から上値が重い展開となるであろう。今週は米雇用統計をはじめ、重要な経済指標の発表を控えており、内容次第では上値が抜ける場合もあるため、為替介入が行われるか警戒したい。

今週の予定

7/3 (MON)	米6月ISM製造業景気指数
7/4 (TUE)	米国休場
7/5 (WED)	米5月製造業新規受注、米FOMC議事要旨(6月会合分)
7/6 (THU)	台湾6月CPI、米6月ADP雇用統計、米6月ISM非製造業景気指数
7/7 (FRI)	台湾6月貿易収支、米6月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。